

2022年9月22日
北海道電力株式会社

2022年9月22日 社長会見要旨

【会見要旨】

本日は、「2022年度連結業績予想および中間・期末配当」についてご説明します。

冒頭、これまで実施予定とお知らせしていましたが中間配当について申し上げます。本日開催の取締役会で、「無配」とさせていただくことを決議しました。株主の皆さまのご期待にお応えできず、誠に申し訳ございません。2022年度の業績予想の大幅な悪化を踏まえた判断であり、詳細は後ほどご説明させていただきます。

【2022年度連結業績予想】

それでは、「2022年度連結業績予想」について、お手元の資料に沿ってご説明します。2ページをご覧ください。

2022年度通期の連結業績につきましては、第1四半期決算の時点では未定としていました。今回、販売電力量を見積ることが可能となったことから、引き続き、燃料価格の動向は不透明ではありますが、一定の前提を置いて、算定しました。

まず、中段に記載している2022年度の販売電力量についてご説明します。当社とご契約いただくお客さまが増加することなどから小売販売は、前年度に比べ15億kWh増加し237億kWh程度となる見通しです。また、当社以外の小売電気事業者さまへの販売を含めた小売・他社販売電力量の合計では前年度に比べ16億kWh増加し315億kWh程度となる見通しです。

売上高につきましては、燃料価格の上昇に伴う燃料費調整額の増加や小売や他社への販売電力量が増加することなどにより、前年度に比べ3,070億円増加の9,700億円程度となる見通しです。

経常損益につきましては、燃料調達費用の削減や経済性のある火力発電所の焚き増しなどの経営効率化の深掘りに取り組んでいますが、燃料価格や電力市場価格の上昇による電力調達費用の増加などの影響が大きく、前年度に比べ840億円減少し700億円程度の損失となる見通しです。

また、純損益につきましても、経常損益の減少などにより、前年度に比べ780億円減少し710億円程度の損失となる見通しです。

資料の 5 ページには、当年度の経常損益の変動要因をまとめていますので後ほどご覧ください。

今年度は、非常に厳しい収支となる見込みですが、当社は、冬季の電力需要のピークに備え、燃料在庫の確保や発電所の保守・運用に万全を期すとともに、燃料調達の創意工夫などに取り組み燃料費や電力購入費用の抑制に努め、収支の改善を図ってまいります。

以上、2022 年度連結業績予想についてご説明しました。

【中間・期末配当】

次に、冒頭にも触れました、中間配当および期末配当予想についてご説明します。4 ページをご覧ください。

当社は、7 月 29 日の第 1 四半期決算発表の時点では、2022 年度の中間および期末配当につきまして、普通株式については、1 株当たり 10 円、年間で 1 株当たり 20 円とし、B 種優先株式については、定款の定めに従い実施する予定であることをお知らせしてしました。

しかしながら、直近で燃料価格や電力市場価格が急激に上昇しており、今後も高い価格水準が維持されるものと見込んでいます。

このため、最大限の効率化に取り組んではいますが、今年度の収支の大幅な悪化は避けられず、さきほどご説明したとおり、通期の連結業績は 700 億円程度の経常損失と見込んでいます。

こうした状況に加えまして、万が一の火力発電所の計画外停止やさらなる燃料価格の高騰などによる収支の悪化を考慮しますと、期末で配当原資を確保できないリスクがあると判断しました。

誠に申し訳ございませんが、普通株式、優先株式ともに、中間配当を「無配」とさせていただきます。

また、期末配当につきましては、今後の燃料価格や電力市場価格の動向などを見極めることとし、現時点では「未定」とさせていただきます。

株主の皆さまにおかれましては、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

私からは以上です。